

平成 22 年度
卒業研究小論文執筆の手引き



鶴見大学 文学部 英語英米文学科

1. 用紙、分量、その他の注意

原稿用紙を使用する場合

- ① A 4 版横書き 400 字詰め原稿用紙を用いる。
- ② 枚数：400 字詰め原稿用紙 20 枚以上。ただし、とびら、目次、付録はこの枚数に入れない。(小論文の構成については次の項目に説明がある)
- ③ 鉛筆書きは不可。黒または青のインキ(またはボールペン)を用いる。
- ④ 1つのマスに 1 字入れて書く。各種の句読点にも 1 マスを与える。ただし句点 (。) や読点 (、) などを行頭に書いたり、カッコやカギの始めの部分、(や「などを行末に書くことは避ける。段落の開始は 1 字分下げる。
〔良くない例〕 主人公の母親は息子を虚脱状態からなんとか抜け出させたいと願った。
だからこそ母親は息子に次のようなきつい言葉を言うのである。「
これ以上おまえをこの家に置くわけにはいかないよ。」その後・・・
- ⑤ 英語の単語や文章は、1つのマスに 2 字を目安として書く。

パソコン、ワープロを使用する場合

- ① 用紙は市販の A 4 版ワープロ印刷用紙を用いる。
- ② 枚数：36 字×30 行で 8 枚以上。ただし、とびら、目次、付録はこの枚数に入れない。
(小論文の構成については次の項目に説明がある)
- ③ 英語の単語や文章は、半角で入力する。

2. 小論文の構成について

小論文は、次のような構成になっているのが望ましい。

- ① とびら (Title Page)
- ② 目次 (Contents)
- ③ 序論 (Introduction)
- ④ 本論 本論は 1、2、あるいは 1 章、2 章などと分けて書く。
各章にはふつう章のタイトルをつける。
「本論」という言葉は目次や見出し等では用いないこと。
- ⑤ 結論 (Conclusion)
- ⑥ 注 (Notes)
- ⑦ 参考文献 (Bibliography)
- ⑧ 付録 (Appendix)

3. 書くときの注意

- ① 作品名、作者名、登場人物名などはカタカナや翻訳名を用いず、英語のつづりで書く。
- ② 書名は The Old Man and the Sea のように下線を引くか、*The Old Man and the Sea* のようにイタリックにする。
- ③ 短詩の1篇や短篇小説の題名は引用符“ ”または‘ ’で囲む。
〔例〕 Walt Whitman の詩集 Leaves of Grass 中の有名な詩“Song of Myself”
- ④ 日本語文献の場合、書名は『 』で囲み、短詩の1篇や短篇小説の題名や本・雑誌に収められた研究論文の1篇は「 」で囲む。
〔例〕 『アメリカ文学ミレニアム』に収められている論文「フォークナーと終末論」
- ⑤ ページごとにアラビア数字でページ番号をつける。とびらと目次にはページ番号をつけない。

4. 引用文に関する注意

論文やレポートでは、自分の考えと、他の人の考え(研究書・論文・Web上の記事等)をきちんと分けて書かなければならない。小論文の中で他の人が書いたものを使用する場合には、引用(または参照)という形にする。引用する場合には次のことに注意する。

4.1. 本文中でどのように書くか

英語文献からの引用

- ① 英語の文学作品や研究書からの引用文は、原文のまま引用する。
- ② 原則として、短い引用文は本文中に入れ、長い引用文は独立した引用文とする。(目安としては、英文の場合、散文では1 sentence、詩では1 line までは本文中に入れてよい。ただし、50 words を越えるような長い sentence の場合は独立した引用文として別の行に書くほうがよい。)
- ③ 手書きの場合は、英文の独立した引用文は、別の白紙にワープロ等でタイプしたものを1マス分下げて原稿用紙に貼る。ただし小論文の本文中に入れて書く短い引用文はペン書きでもよい。そのような短い引用文は“ ”または‘ ’で囲う。
- ④ 英文を引用するとき、行末の単語が次行にまたがる時は、区切ることができる位置を必ず辞書で確認して、ハイフンをつけて区切る。
- ⑤ 英文の引用文には末尾に (App. 1)、(App. 2) のような形式で通し番号をつけ、付録 (Appendix) の中の同じ番号が各英文と対応するように和訳文を書く。(ただし、語学の小論文における文法などに関する用例は、たとえ引用文であっても和訳の必要はない)

- ⑥ 付録 (Appendix) の和訳文は、翻訳書の文章をそのまま使わず、自分で和訳する。
- ⑦ 英語以外の外国語文献を使用する場合も英文の場合に準ずる。

日本語語文献からの引用

日本語文献から引用する場合は、短いものは「 」でくくって本文中に入れ、長いものは改行して独立した引用文とする。その場合、引用の前後を1行ずつあけ引用部分はすべて行頭を1字ずつ下げて（すなわち原稿用紙の左側1列分をあけて）書く。

4.2. どの文献から引用したかを示す

日本語の文献であっても外国語の文献であっても、引用した場合には必ずどこから引用したかを示すために文献に関する情報を書かなくてははいけない。本からの引用の場合は、著者名・書名・出版社・発行年・ページ、本や雑誌の中の研究論文からの引用の場合は、執筆者名・論文名・雑誌名・巻号・(出版社)・発行年月・ページ、の情報が必要である(翻訳書の場合は翻訳者名も必要)。Web上で検索した記事はそのアドレス等の詳細を明記すること。

どの引用文がどの文献からのものかを小論文の中で示すには、例えば次のような2つの方法がある。指導教員と相談してどちらかの方法(またはその他の方法)に統一する。

A 注をつける方法

- ① 本文中の引用部分ごとに番号をつけ、注の対応する番号のところに文献の情報を示す。同一書から複数回引用する場合は全ての情報を繰り返す必要はなく、著者の姓と書名およびページ数のみでよい。
- ② 文学に関する小論文の場合、主要原文テキストからの引用は初出の場合のみ注をつけ、2回目からは注ではなく、引用文末尾に引用部分の(章数と)ページを () に入れて書く。ただし、途中で他文献の引用がはさまったときは、書名(と章数)とページを書く。

B ()内に書く方法(APA方式)

- ① 本文中の引用部分の直後に、() で囲んで著者名(姓のみ)、文献の発行年、ページを書く。
- ② この方法の場合、注は文献情報以外の説明を加えるときに用いることになる。文献情報以外に注がない場合は注の部分を設けなくてもよい。(小論文の構成については2の項目に説明がある)

4.3. 引用および注の例

A 注をつける方法 本文・注・参考文献(Bibliography)は次のようになる

【本文】 文学に関する小論文で、主要原文テキストから長い引用をする場合の例
・・・(中略)・・・。昼食をともにしながら Babbitt は友人の Paul に次のように自分の思いを打ち明ける。

And I belong to the church, and play enough golf to keep in trim, and I only associate with good decent fellows. And yet, even so, I don't know that I'm entirely satisfied! (3) (App. 2)

つまり Babbitt が言いたいのは・・・

【注の書き方】

(3) Sinclair Lewis, *Babbitt* (Penguin Books, 1996), p.53.

【参考文献(Bibliography)の書き方】

Lewis, Sinclair. *Babbitt*. Penguin Books, 1996.
國重純二編『アメリカ文学ミレニアム』東京: 南雲堂 2001.

B ()内に書く方法(APA方式) 本文・参考文献(Bibliography)は次のようになる

【本文】 文学に関する小論文で、主要原文テキストから長い引用をする場合の例
・・・(中略)・・・。昼食をともにしながら Babbitt は友人の Paul に次のように自分の思いを打ち明ける。

And I belong to the church, and play enough golf to keep in trim, and I only associate with good decent fellows. And yet, even so, I don't know that I'm entirely satisfied! (Lewis, 1996, p.53) (App. 2)

つまり Babbitt が言いたいのは・・・

【参考文献(Bibliography)の書き方】

Lewis, S. 1996. *Babbitt*. New York: Penguin Books.
國重純二編. 2001. 『アメリカ文学ミレニアム』東京: 南雲堂.

4.4. 参照する場合

引用(他の文献の表現をそのまま使う)ではなく、参照(他の人の考えを自分の言葉でまとめる)をする場合も、どちらかの方式(注をつけるか、かっこ内に書くか)で文献の情報を書く必要がある。

5. 参考文献リスト

- ① ページの上、中央に「参考文献」あるいは“Bibliography”ないし“Works Cited”と題し、1行あけて、引用したり参考にした英語の文献、論文などを著者の姓のアルファベット順に列挙する。日本語文献は英語文献の後にまとめて著者の姓の五十音順に配列する。
- ② Web 上の記事を引用・参照した場合は、サイト名、アドレス (URL)、アクセスの日付等の情報を含め、文献表の最後にまとめて示すこと。
- ③ 参考文献 (Bibliography) は、研究の対象とした作家の著作 (著書・書簡集・日記など) の第 1 次資料 (Primary Sources) とそれ以外の研究書・論文などの第 2 次資料 (Secondary Sources) に分けたリストを作ることできる。その場合、Primary Sources は作家ごとにまとめて初版出版年代順に配列する。Secondary Sources は著者の姓のアルファベット順に配列する。

6. 装丁

- ① 小論文には指定のファイル (青色) を用いること。ファイルは 1 号館の西田書店にて販売している。
- ② 6 ページを参照のうえ、ファイルのおもてに小論文の題名、指導教員名、学科名、学籍番号、氏名を白い紙に書いて貼ること。

7. 小論文の提出について

- ① 小論文の提出期間は以下のとおりである。

平成 23 年 1 月 11 日 (火)	9 時～12 時・13 時～16 時
平成 23 年 1 月 12 日 (水)	9 時～12 時・13 時～16 時
平成 23 年 1 月 13 日 (木)	9 時～12 時・13 時～16 時
- ② 必ず本人が文学部教務課に提出すること。やむをえない事情で本人が提出できない場合は、ただちに教務課に連絡し、その指示に従うこと。(研究室または教員は直接受理できない。)
- ③ この締め切りに少しでも遅れるといかなる事情があるうとも受け付けられないので、各自の責任において、十分に注意すること。
- ④ 小論文提出の際には、学生証、万年筆またはボールペン、および印鑑を持参すること。
- ⑤ 小論文と引き換えに、受領証が渡される。

《ファイルおもて見本》

卒 業 研 究 題 目

指 導 教 員 名

英 語 英 米 文 学 科

学 籍 番 号 氏 名